

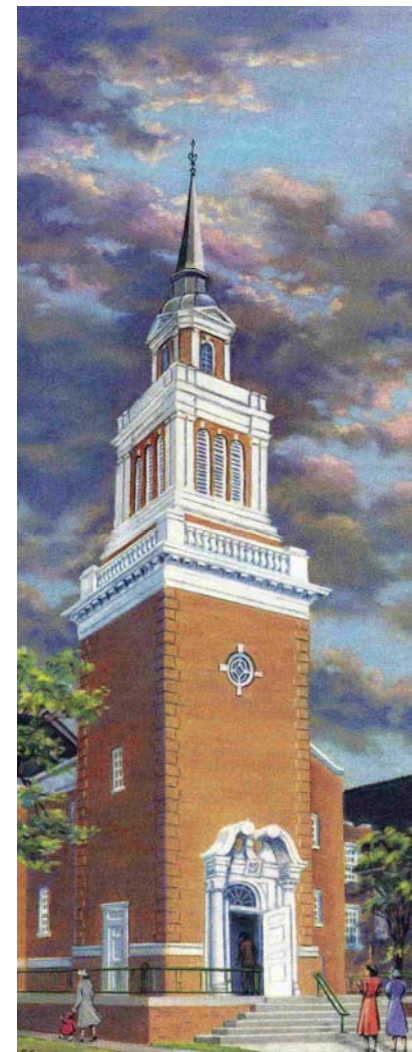
## 感謝録

荒井 久和子姉      不破 満雄兄      加納 幸子姉  
小坂 るみ姉      三縄 博兄      三縄 都美子姉  
坂田 淑姉      下竹 博兄      下竹 寛子姉  
下竹 祐三郎兄      下竹 由美子姉      武井 里花姉  
Scroggins 由紀牧師

## 記事: 消息

- \* 過ぎにし聖日(9月8日)
  - 一 由紀牧師の説教: "命のパン"と題して、ヨハネによる福音書6章35-40節からでした。主イエスが、五つのパンと二匹の魚をもって5000人を満たされる奇蹟をされた後、群衆はイエスを追って、カペナウムに行きました。パンの奇蹟にこだわり、いつも天からマナのような糧を求める群衆に対して、主イエスは、"わたしがパンである"と言われ、イエスを信じる者たちが、永遠の命と蘇えりの約束を受けていることを教えられました。主イエスは、私たちの命の糧であります。実際的な必要を超える恵みが、信徒に与えられていることについて考えました。
  - 一 聖書研究は、ローマ人への手紙12章9-12節からでした。信徒として、お互いに偽りのない愛をもって接すること、熱心にうむことなく主に仕えること、救いの望みと喜びを持ち、常に祈ることをパウロは勧めています。信徒同士の関係、また自分と主との関係においてどのように接するべきか、さらに自分自身の心においてどのようにあるべきかについて学びました。
- \* 9月15日(日) 12:30 pm      Howel Hall  
Mission Trip Lunch and Talent Show  
新学期の始まりにあたって、ユースたちのタレント・ショーが行なわれます。  
ミッション・ランチ代は寄付を頂いて、ガテマラ・ミッション・トリップの費用に当てられます。
- \* 9月21日(土) 9am - 2pm      Howel Hall  
Church Leaders' Retreat (ランチ付き)  
"Moving Beyond Welocme" という主題で、新しく教会に来る人たちをどのように迎え受け入れて行ったらよいか、"おのれの如く汝の隣を愛すべし"という御言葉の実践問題を考える集まりです。

発行: 2013年 9月 10日 ノースショア・バプテスト教会日本語部  
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)  
Tel: 773-728-4200 Ext.26 Email: yscroggins@northshorebaptist.org



# 週報

第3451号  
2013年 9月 15日

ノースショア バプテスト教会 日本語部  
North Shore Baptist Church Japanese Congregation

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640  
Tel: 773-728-4200 Web: www.northshorebaptist.org

日曜日礼拝順序

2013年 9月 15日 午前11時 南部チャペル

前奏		武井 里花姉
頌栄	539	
開会の祈り		Scroggins 由紀牧師
主の祈り		一同
交読文	3 詩篇 8篇	
賛美歌	9 "ちからの主を ほめたたえまつれ"	
祈りの時		Scroggins 由紀牧師
聖書拝読		小坂 るみ姉
	コリント人への第二の手紙 4章 16-18節	
賛美歌	194 "さかえにみちたる かみのみやこは"	
説教	「日ごとに新しく」	Scroggins 由紀牧師
賛美歌	403 "かみによりて いつくしめる"	
献金		下竹 寛子姉
報告		
頌栄	541	
祝禱		Scroggins 由紀牧師
後奏		武井 里花姉
(礼拝終了:奉仕開始)		

祈禱・聖書学習会 午前9時45分 109号室  
ローマ人への手紙 12章 指導: Scroggins 由紀牧師

交わりの時 礼拝後 南部チャペル

今週の聖句

エレミヤ書 4章 11-12, 22-28節 詩篇 14篇  
テモテへの第一の手紙 1章 12-17節  
ルカによる福音書 15章 1-10節

憩いの場

“神の宮”

”あなた方は、神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。“ (コリント人への第一の手紙3章16節)

この8月は、平和について考えさせられた月でした。18日にはJASCにおいて、日本語部の下竹兄も含めて3人の日本から来た方々の太平洋戦争の体験についての証が行われ、戦争を知らない世代にとっても貴重なお話を伺いました。学生であったり、まだ子供だった方たちには二度と繰り返したくない、またほかの人にも経験させたくない体験だったことが、心に残りました。また、その次の週には、ブラジル映画の”けがれた心“という日系ブラジル人の勝ち組といわれる人たちが、日本の敗戦を受け入れられなかった事実をもとにした映画を見ました。人間は、相手を自分と同じ人間でない、と思えば他者をかえりみることなく、自分の目的だけ遂行することも可能です。そして、この世の争いは、相手を同じ人間でない、と考えるところから始まり、戦争に発展します。私たちは、この世の平和を願いますが、ごく身近なところでも、自分のエゴのために争うことがあります。しかし、パウロが言うように、もし相手が神の宮であり、神の御霊がその人のうちに宿っているとすればどうでしょうか。”もし人が神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう“ (コリント第一の手紙3章17節) といっています。自分であれ、他人であれ、私たちはご聖霊の宿っている神の宮を、どのように尊厳をもって扱うべきかを、まず教会や家庭の中で、信徒として学ぶことができますように。神から与えられた命の尊厳を、私たち信徒が一人ひとり考えて生きられますように祈ります。(スクロギンズ由紀)